

シリーズ 激動中国

パリ協定後の気候変動政策

金 振

博士(法学)、(公財)地球環境戦略研究機関 気候変動とエネルギー領域
研究マネージャー/主任研究員



その27 コロナ影響下における主要国のCO₂排出量の現状

2020年：中国の二酸化炭素排出量は1.5%増

COVID-19による世界的なパンデミック(コロナ)の影響で、2020年の世界経済は大きな混乱に陥り、ほとんどの国のGDPはマイナスに転じた。2020年基準で、世界全体における化石燃料由来の二酸化炭素(CO₂)排出量(グローバル・排出量)は、360億tとなり、2019年比で5.1%減少した。グローバル・排出量が前年比でマイナスに転じたのは、世界金融危機にさらされた2009年以来的ことである。

2020年グローバル・排出量を国別の割合で見た場合、中国が32.5%で最も高い。日本、韓国がそれぞれ3.0%と1.7%となる(図1)。コロナ影響による世界経済の停滞化を受け、日本や韓国における国全体排出量は、それぞれ、前年比6.8%と6.3%減っているのに対し、中国は1.5%増となった。

2021年：中国、アメリカともに増える見込み

新型コロナ・ウィルスの大規模流行や世界物流の混乱、国際エネルギー価格や原材料の高騰などの不確実性が多いものの、2021年の世界経済は軌道に乗りつつある。特に、中国やアメリカの経済は引き続き回復に向かっていく。

中国の場合、コロナ特注効果もあり、2021年GDPは前年比8.1%(2019年比5.5%ほど)成長した。2021年発電量(一定規模以上の工業発電量)は前年比8.1%増の8000TWh(8万億kW)に達し、石炭火力、原子力、風力、太陽光の発電量も、それぞれ、前年比8.4%、11.3%、29.8%、14.1%増加している。特に、産業部門の石炭消費量は前年比4.7%増の

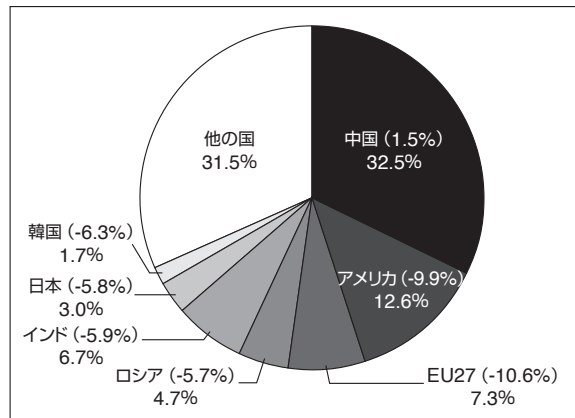
40.7億tに達し、全体的な二酸化炭素排出量は増える可能性がある。

一方、アメリカ調査会社ロジウム・グループは1月10日、米国の温室効果ガス排出量が2021年に「前年比6.2%増」と再び急増したとの試算結果を発表し、その要因の一つとして石炭火力発電が前年比17%増加したことを挙げている。世界的な経済停滞が返って中国とアメリカの二酸化炭素の排出量を押し上げてしまった結果となった。

他方、中国の再エネ導入は加速している。最新統計では、2021年における風力、太陽光発電の年間導入量は、それぞれ、4757万kWと5488万kWを記録した。2021年末まで、累計風力発電導入量は3.28億kW、太陽光は3.02億kWに達し、年間発電量では、1兆kWh逼迫している。

次回号では、中国の再エネ政策の最新動向について紹介する。

●主要国における化石燃料由来二酸化炭素排出量のグローバル・割合(2020年)



資料: European Commission (2021) 「GHG emissions of all world countries 2021 Report」を基に作成。(注1: 国名%)は、該当国の2020年CO₂排出量の前年比増減率である。注2: 日本の2019年比減少率は、国立環境研究所(2021年)「2020年度(令和2年度)の温室効果ガス排出量(速報値)について」から採用